

あの夏を忘れない



フェスタの歴史は
みんなの思い

夏の風物詩
たるみずふれあいフェスタ
夏祭りの中止

垂水市の夏といえば市内でも最大規模のイベント「たるみずふれあいフェスタ夏祭り」。市内在住者のみならず、市内外から例年約3万人以上が訪れるこのイベントにみなさんもたくさんの思い出があるのではないだろうか。

しかし、今年是世界中に猛威を振るう新型コロナウイルスの影響で市内のイベントもほとんどが中止や延期となり、今年8月8日（土）に開催予定だったフェスタも中止が決定しました。

今回の特集では、これまでみんなにたくさん思い出を残してくれたフェスタの歴史と携わる実行委員の方々の思いを紹介し、よりフェスタを楽しみにしていただきたいと思っています。

みんなの思いの詰まった フェスタ夏祭り

垂水市の夏祭りは、市制施行翌年の昭和34年から「市民納涼祭」として開催されてきました。また、平成2年に「ふれあいフェスティバル」と「市民納涼祭」の同時開催により現在の形となりました。

それまで、市の主体で行われていたフェスタは、市の財政難などから平成16年に危機を迎えます。しかし、当時の垂水市観光協会長とその思いに賛同した垂水市商工会青年部が立ち上がり、市民総ぐるみでのフェスタの開催が果たされました。開催にかかる経費の協賛金集めや会場設営、清掃活動等のボランティアなど、みんなの思いにより作られたイベントとなりました。

現在のフェスタ実行委員会委員長・竹之内信一さんは「垂水市の夏の一大イベントであるフェスタは、市内外からの

協賛金やイベントに参加し盛り上げる人々、ボランティア

の方々など、皆様の支えによって開催できています。特に開催にかかる経費の大半が協賛金で賄われており、フェスタに対する皆様の思いを改めて感じています。また、フェスタを通じて、イベントの実働部隊となっている青年部が一つになり、彼らの元気がまちの元気にも繋がっていると思います。みんなの思いの詰まったフェスタを、また皆様に楽しみにしていただけるよう頑張っています。とフェスタへの思いを話しました。



実行委員会 委員長
竹之内 信一 さん (市観光協会会長)

フェスタの歴史

